

卒業式 校長式辞の映像を観て・・・ 学生たちの感想（抜粋）

教職概論 4月17日（月）1限 大講義室

先生が、一人の人間として自分より少しだけあとに生まれた目の前のひとりの人間に話をしている。そんな感じがして感動しました。先生は、子どもより賢くて立派だなんてことはありません。自分と生徒が等しい存在だと理解しているからこそ抽象的でありきたりな言葉を選ばず自分の失敗談を自分の言葉で語れるのだと思いました。先生もおっしゃっていましたが、「素のまま」子どもに接することが大切なんだとわかりました。小中高校にいた時を思い出しても、今の自分を考えても、やはり相手が心を開いて弱い部分を見せてくれるとうれしいし、その相手を信じたいと感じます。だから、先生という役職名はいったん脇において一人の人間として子どもに接していきたいです。

私の知っている校長式辞は、紙に書かれたものを校長先生が読むというもので、あんなに人に語るような感じの話を見たのは初めてでした。だからこそ、自分が本当に言いたいことがより伝わるのだろうと思いました。聞く側になってみて、校長式辞であんなにも心が動かされたのは初めてでした。思わず涙が出てしまいました。自分の不安や悲しみの涙の経験を基にどのように困難に打ち勝っていくのかということを知ることができました。先生がどれだけ生徒を大切に、情熱をかけて教育してきたのかということもとても感じられました。それと同時に、生徒がこれからどのように未来を生きていくのかということの後押しをしているのかのように感じられ、当時の卒業生は本当に心強かったのだろうなと思いました。改めて、教員が生徒にとってどれだけ大きな存在かということのを再認識することができました。本当に良い経験になりました。ありがとうございました。

松井校長先生の話聞いて、感動して涙が出そうになりました。松井先生がおっしゃったように進学がうまくいかなかったり、大好きな人に振られたり、大切な家族を失くしたり、人生にはつらいことがたくさんある。それでも自分の道を選択することができるのは私自身であり、自分で良い人生にしていけることができる。本当にそのとおりで胸を打たれました。私は大学一年生となり、思った通りには共通テストの点も伸びなかったし、大好きな人に振られたこともあります。しかし、これからはもっとこんなことよりもっとつらいことがあると思います。自分のこれからやこれまでの体験を子どもたちにさらけ出しつつ、子ども達から学び自分も成長していけたら、そして子どもの心に火をつけることができるような、そんな教師になればいいなと思いました。自分は今教師へのスタートラインを切っていて、この卒業式の動画をこの時期に見ることができてよかったと思います。松井先生の言葉通り「自分は素のままがいい」「子どもたちと共に成長できればいいんだ」という言葉を胸に卒業生たちと同じように、自分だけの花を咲かせられたらいいなと思います。

私の校長先生の話のイメージは、正直ただ話が長くて堅苦しいというものでしたが、松井先生の式辞は伝えようという熱意のもとで話し方や言葉選びなどが私の以前までのイメージとは全く違うものでした。また説得力を持たせられるような教師になるためには、自らが成長して生徒や保護者の信頼を常日頃から得ていることが必要だと思います。自分の言葉で届けることは簡単なことではないので、これからの学びを通して培っていきたいです。そして自分の経験が生徒にとっても学びになるということが教師の魅力だと思うので、私自身の指導力を高められるのはもちろん、子どもたちに伝えられるような経験値を高めることが教師には求められていると思います。

「物事は感謝からしか始まらない」という言葉を、先生ご本人が式典の最初から多くの方々に感謝を伝える姿勢を見せることで、感謝の大切さを考えさせることができるのだなあと考えた。先生の過去の体験談を話しながら友達の大切さや伝えられるときに日頃から感謝の気持ちを伝えることの大事さを生徒たちに伝えているのを見て、自分の中でもすごく考えさせられる部分がたくさんあった。自分自身がきちんと周りの人を大切にし、感謝の気持ちを本当に持っていないと、聞く人の心には届くはずもないなと感じるようになった。卒業式の日はおめでたくて旅立ちを祝す日ではあるけれど、同時に生徒は、その先の自身の将来について不安を感じる日でもあると思うが、そのような日に、これから歩む人生における選択肢を自由に決め、自信を持って進んでいくべきであると伝えられたら、すごく心強く感じるだろうなと思った。自分が教職員になったとき、その一瞬一瞬を大切にしながら伝えたいことをその場でできるだけ伝え、その姿勢を自ら示し、生徒たちが力強く未来を進んでいける手助けができるような人間でありたいと考えるようになった。

生徒との関わりの中で泣けてくるということは、生徒のことをとてもよく見ていて身近で成長を感じたり自分も全力で関わったりしているからこそできる教員の特権だと思いました。私も学生時代にそのように一緒に喜んでくれる先生と出会いたかったし、そのような生徒の成長を喜べる先生になりたいと思いました。大学に入って教員という職業についてさまざまな実践的なことを学んで、正直自分には向いていないのではないかと思うことが多々ありましたが、今回見た動画のような教員としてのやりがい詰まったものを見てやっぱりやりたいなと改めて思いました。たくさん勉強して立派な先生になりたいです。

教師という仕事は、子どもたちに勉強を教えるだけでなく、子どもと共に成長していく仕事だということがとても心に残った。自分の学校生活を振り返ってみても、先生方はいつも生徒たちのそばでさまざまなことを見守り支えてくれていたと感じる。さらに生徒に人気な先生は、子どもたちと近い距離で一緒になって努力してくれた先生だと思う。教師が注いだ熱量は、必ず生徒には届いているのだと思った。松井先生の式辞は私にもすごく刺さった。「こうなってほしい」という強い熱意と、ありがとうという感謝が言葉とともに全身から伝わる気がした。どんなに良い言葉を選んだとしても、心がこもっていなければ伝わらない。いかに自分の気持ちを伝えるべき人に伝えていくか、身近な人にやさしい、本気になって向き合っていくかが大事だとわかった。自分も熱を持って生徒に向き合い、一緒に成長していける先生になりたいと強く感じた。